
ポケットモンスター マリン

港龍香

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ポケットモンスター マリン

【Nコード】

N0770Z

【作者名】

港龍香

【あらすじ】

ポケモンがいる世界でこんなことが起こっていた。カントー地方における人々の支配。ジョウト地方におけるロケット団の復活事件。ホウエン地方における古代伝説のポケモンの復活。シンオウ地方における時と空間の支配。イッシュ地方における人々がポケモンを手放す現象。さまざまな地域で、起こっている中、小さなところでも大きな戦いがあったそれは 世界がなくなるかの出来事。センゴク地方それが今回注目した舞台

出発してみよう！（前書き）

これは ポケットモンスター ゲーム アニメ スペシャルの内容
を引っ張っていますが それらのキャラクターは出てきません
ご了承ください

出発してみよう！

鮮国地方 アリスカタウン

あ「ふあゝ」

彼の名前は あゆむ 今日アリスカタウンから旅立つ男の子だ

「ごろろー」

一緒にいるのはミズゴロウ彼のパートナーだ

あ「おはようミズゴロウ 今日はいよいよ出発だ ちひろには負けてられないからね」

ちなみに下に妹がいる

ち「ばか兄ー！おきてるかー！！」

ってやってきたか 彼女の名前はちひろ
才色兼備完璧超人の女の子

「るぴー」「わたたー」

一緒にいるのはスコルピとワタッコだ

あ「うん 起きてるよ ちひろ」

ち「めずらしっ！起きてるなんて！」

あ「あははー 今日ぐらいは起きてないとね」

「ちよつと二人ともー時間よー」

二人「はい」

ゝ研究所ゝ

「なみか 二人は？」

な「そろそろじゃないかな たぶん・・・」

彼女の名前はなみか 博士の子供

ポケモンとしての知識はすごい・・・が

バカである

「ネー」

彼女のパートナーはネイティ どうやら

な「来たみたいだよ」

ばたん！

あ「遅れてすみません 博士！」

ち「私は悪くないからねー」

「そろったみたいだね なみか あゆむ君たちには

ポケモン図鑑をたくす！」

あ「はい！ これで旅に出られるんですね！」

「その通りだ このポケモン図鑑を完成するのはとても大変だ
いろんな人と戦い交換そして野生のポケモンを捕まえる

がんばってくれ！」

ち「がんばってねー」

な「ちーちゃんはやらないの？」

ち「私はもう もらったもん ほぼぜーんぶ捕まえたもんね！」

あ「あいかわらず すごいなー」

な「そうだ あゆむ ポケモンの捕まえ方知らないでしょ 教えて
あげる！」

あ「あ・・・うん なみか」

と二人は研究所をあとにする
そのあと

「さてチャンピオンのところまでいけるかね？」

ち「博士 あの二人が私みたいにジムまでいくと思ってるの？」

「なみかは行かないとおもうが あゆむ君は挑むね だって知って
るんだろう？今のチャンピオンを」

ち「確かにそうだ 負けられない気持ちはあるだろうね だって現
チャンピオンはこの私なんだもの」

ここでチャンピオン発覚 なみかは知らないですよ

「そういえば まだ捕まらないのか この地方にいる二体のポケモ
ン」

ち「この地方は他のと違ってここでしか住んでいないポケモンはほ
ぼいない・・・二体しかいないこの地方だけのポケモン・・・一匹

見つけたけど

もう一匹がね・・・」

「さすがに 難しいか 伝説のポケモンは」

ち「そうだね 名前だけ解ってるのになかなか会えない まあ気楽にさがすよ」

とちひろは研究所を去る

アルセウスとかミュウツーとかセレビィとか もう捕まえているみたいですよ

（才色兼備の完璧超人でも見つけれないポケモンか・・・）

と博士は思っていました

～一番道路～

な「野生はねー弱らせてから捕まえるのが基本！でもでも状態異常にするとともに捕まえやすい！解った？」

あ「うん 解ったよなみか」

なんか棒読みですね 聞き流してません？

な「そう？ならこの先にある ミレッドタウンまで来てみて いいこと教えてあげる」

あ「うん 解ったよ」

となみかは先にミレッドタウンにいった

そのあとからちひろが来た

ち「お兄ちゃん こんなところにいたんだ」

あ「うん さつきまで なみかに捕まえること教えてもらってたから」

ち「そんなことぐらい知ってるのに 物心ついたときはいつもばかりのこと

心配してたよね」

あ「そうだね あのとときも・・・」

ち「・・・」

あら？なにかつらい過去でもあるのかな？

ち「そういえば お兄ちゃん このさきミレッドタウンにジムリー

ダーいるの知ってる？」

あ「知ってるよ もうすこし鍛えてから挑もうかと考えてる」
ち「そう・・・がんばって」

とちひろは去る

あ「ミズゴロウ」

「ごろー」

あ「行くか ミレッドタウンに」

とあゆむは走る 次の町 ミレッドタウンへ

次回予告『ミレッドタウンについた あゆむ！入ってすぐに現れた少年に勝負を挑まれる！ 手持ちはなんとナエトル！相性抜群の相手に』

悪戦苦闘するあゆむ！ そしてジムリーダーとは誰なのか！
次回「勝負してみよう」お楽しみに！』

勝負してみよう

一番道路

あ「ふう〜・・・」

「じろろ?」

あ「ちよつとね・・・疲れたなーって思ってたさ」

「じろろ!」

あ「ごめんごめん あと少しで次の町だ・・・」

とあゆむとミズゴロウは一番道路にいた
がささささ

あ「!ミズゴロウ 水鉄砲!」

「じろろ!」

と出てきたのはサンドだった

そのまま命中 そして

あ「モンスターボール!」

と捕まえた

あ「・・・水鉄砲が当たったにしてはずいぶん弱っている・・・今
傷薬は持っていないし・・・ミズゴロウ!」

「じろろっ!」

あ「早くミレッドタウンに急ごう!」

「じろろ!!!」

ミレッドタウン

あ「ふう・・・ってポケモンセンターは・・・」

????「・・・・・・・・・・・・・・・・あゆむと言っのはお前か?」

あ「そうだけど・・・?」

といったら

????「勝負する!」

とポケモンを出してきた

あ「っ・・・ミズゴロウ!」

「ごろろ！」

「???」「ナエトル！」

「ナエ！」

あ「草タイプ・・・」

とあゆむは心の中で

（こっちは体力が無いサンドとミズゴロウだけ・・・どうにか勝って早くポケモンセンターに連れて行かないと・・・！）

「???」「葉っぱカッター！」

あ「どろかけ！！」

と技が衝突

「???」「たいあたり」

あ「ならこっちもだミズゴロウ！」

「ごろろ！」「なえ！！」

とまたも衝突

（不意打ちつかないとダメか・・・なら！）

あ「ミズゴロウ！どろかけだ！」

「???」「目潰しか？そんなのは効かない！」

あ「いや・・・狙うのは足だ！」

「???」「なっ！」

とナエトルの身動きが取れなくなっていた

あ「ミズゴロウ！体当たり！」

「ごろろ！！」

と命中する

「???」「・・・戻れ ナエトル」

あ「戻すのか」

「???」「当たり前だ 勝負はもうついている これ以上のダメージはしたくないしな」

あ「やさしいんだな」

「???」「当たり前だろう ポケモンは生きているんだからな 人もダメージを追いすぎれば壊れるしな」

あ「そうゆう役って たいがいポケモンを道具にするって相場が決まっているからな」

「???」「どんな相場だ」

突っ込み役が増えた

「ポケモンセンター」

な「おっそーい!!」

ち「まあまあ落ち着きなよ なみか姉ちゃん」

な「ネイちゃんが町に入ってたって来てから30分はたってるの!なに? 迷子にでもなったの!？」

ち「いや・・・いくらお兄ちゃんでもそこまでバカじゃないよ・・・」

突っ込み役が逆になっている

と入り口からあゆむとさっきの男の子が入ってきた

な「遅い! いつまでまたせるのよっ!」

あ「ごめん なみか ちょっとバトルしてたら遅くなったんだよ」

「???」「・・・」

ち「その人が相手?」

な「ふーん・・・あたしはなみか ポケモン図鑑を完成するために旅をしている女の子!」

といつてから

ち「私はちひろ! ばか兄の妹なの!」

あ「そういえばお前の名前聞いてないな」

さいが「・・・さいがだ・・・」

あ「へー・・・そういえばなんで僕の名前しっていたんだ?」

さ「・・・アリスカタウンで両親のどちらか聞いたら解るだろう?

あの一族の末裔だからな」

ち「照れるな!」 ↑末裔その2

あ「そうだね!」 ↑末裔その1

な「そっか そうだもんね そりゃああんたら兄妹頭いいもん あたしより」

と言ってちひろがこういう

ち「なみか姉ちゃんはポケモン関係の知識だけはいいもんね」

な「ヴっ・・・」

あ「もつといええば それ以外はダメだけどね」

な「あうっ・・・」

いたいたしいでしょうね なんせ二連続だから

さ「いいところがポケモンしかないんだな」

な「うるさーいっ!」

となみかが言った後

さ「そういえば ポケモンを回復するんじゃないのか?」

あ「そうだった ってゆうかさいがもだろ?」

さ「ああ・・・」

とジョーイさんにポケモンを渡した

ち「・・・お兄ちゃん 手持ち二匹だっけ?」

あ「一番道路で捕まえたんだ 水鉄砲当たったにしていはいぶん弱

ってたし・・・」

な「急所にあたっただけじゃないの?」

あ「急所に当たってもだよ」

さ「・・・」

ち「そういえばバトルってどっち勝ったの!?!」

あ「僕のほうだよ まあ・・・一番最初のバトルよりか条件は良かったしね」

さ「草タイプがか?」

ち「・・・そっか 最初のバトルってあれだもんね

しかもそれで

も勝ったし・・・」

さ「メンバーは?」

な「たしかー ポポッコとユキワラシだよね?」

あ「そうだね しかもレベルが上 こっちは一匹だったし・・・ね

っ ちひろ」

ち「うん そうだねー お兄ちゃんユッキーを一発で倒したしさ

ワッコをひたすらいあたりしてきたしさ 攻撃する暇が無かった」

さ「その ユキワラシは見れるのか？そのワタッコがポポッコだと
して」

ち「んー…見れないね ごめん」
な「…」

と沈黙 何かあるみたいです 気になる

「回復終わりましたよー」

さ「ありがとうございます …じゃあな」

あ「どこいくんだ？」

さ「どこだっていいじゃないか」

とさいが が去っていった

あ「…変なやつだな」

ち「だね」

な「あんたら兄妹が言うな」

たしかにそうだね

あ「つと ミズゴロウ サンド出ておいで」

「ごろろー」「さん！」

と二匹が出てきた

ち「そのサンド手持ちにするの？」

あ「うん 捕まえたしね」

な「そういえばジムに挑戦するの？するならジムまで案内してあげ
る！」

あ「よろしく なみか」

とポケモンセンターから出て行った

ち「傷つきすぎたポケモンねえ…」と

ちひろは

ち「ワッコ ジムまでお願いね」

「わたた！」

とポケモンセンターを後にした

ミレッドジム 前

な「ここがミレッドジム」

あ「おつきーねー」

「挑戦者かい？」

あ「はい そうですけど」

「そっかーよかったよかった リーダー挑戦者ですよ」

「なあに！？」

と大きい声が聞こえた

な「おつきっ・・・」

ドタドタと音がして

「挑戦者！やっときたのか！」

「はい ストさん」

「あはは よかったよかった」

「そうですねー」

あ＆な「「・・・」」

沈黙していた

あ「声大きいけど 見た目そうじゃないね」

ス「よくいわれるな 見た目があってないと！」

な「耳がキーンとするう・・・」

と時間が過ぎると ふわふわと何かがやってきた

ち「あ ストさん ひさしぶり」

ス「ちひろかーひさしいな」

な「ちーちゃん知り合い？」

ち「知り合いも何も 挑戦者だったもん」

チャンピオンならそうですよね

な「へえ・・・」

それでおわっていいんですかね？

あ「挑戦してもいいですか？」

ス「いつでもいいぞ！」

「その前にジムのルールは解るかい？」

あ「なんとなくですけど・・・」

「それじゃ 説明するね ポケモンは6匹まで

先に相手のポケモンをすべて倒したほうの勝ち

入れ替えは挑戦者のみできるよ 道具やきのみの持ち込みは禁止以上だね」

ス「安心しろ ジムリーダー全員6匹まで持ってないからなー」

ち「二匹以上六匹未満だね」

「手持ちは二匹だね それじゃ ジムの中入ってね すぐ始めるよ」
な「私達は？」

ち「観客席あるからそこにいこ」

と二人はそこにいった

でジムリーダーと挑戦者^{あゆむ}は

ジムの中に入り準備をしていた

「それでは ミレッドジム ジム戦を開始します
準備はよろしいですか？」

あ「大丈夫です」

ス「OKだ」

「では 始めっ！」

の声と同時にポケモンが出され 技が炸裂した

ス「イワーク！たいあたり！」

あ「ミスゴロウ！どろかけ！」

それを観客席で見ていたなみかは

な「すごい」

ち「んー・・・勝負見えたね」

な「早いよ ちーちゃん でどっちが勝つの？」

ち「見てれば解るよ すぐに決着つくかも」

と舞い上がった煙がなくなってきた

イワークが倒れていた

ス「一発でこれほどとは・・・イワークもどれ！」

あ「よくやったよミスゴロウ 次も頑張れる？」

「ころろ！」

ス（ふうむ・・・チャンピオン家系の息子であっていい判断をする）

「ウソツキーよ 行ってくるのだ」

な「草タイプっぽくて私嫌い」

ち「わかってはいても草タイプ入ってるみたいだもんね」

あ「・・・ミズゴロウ！水鉄砲！」

ス「ウソツキー！いわなだれ！」

と技が炸裂

な「ごほっ！げほっ！」

ち「大丈夫？」

な「なんとか・・・」

煙が無くなったあと見たのは・

ス「ふむ・・・」

あ「ほっ・・・」

両者とも倒れている姿だった

「試合終了 勝者挑戦者あゆむ！」

あ「よしっ！」

な「勝ったー！」

ス「ふむ さすがというのか当たり前というのか解らないが おめ

でとう

あ「いやー・・・やっとが正解ですかね？ 僕家族の中で一番弱いで

すから」

ス「ストーンバッチだ 受け取れ」

あ「ありがとうございます」

とバッチを受け取った

な「おめでとー！」

ち「お母さん見たら激怒すかもね」

あ「そうだねー」

な「なんで！？」

ち「『相性抜群の相手なんだから 一匹で倒しなさい！』って」

あ「ちひろの場合は ユツキー一匹で倒したもんね」

ス「あれは 酷かった」

ち「実力の差ですから」

と平然に言う 実力でって・・・

「次は アスナタウンジムかな？」

な「次の町はないの？」

ち「次の町フレイシティはジムないね 大都市だからあってもいいんだけどね」

な「へえ・・・」

「ジム外」

「それじゃ 次のジム頑張ってね」

ス「負けるなよおおお！」

あ&な&ち「「さようなら」」「」

とあゆむたちが見えなくなると後ろから

さ「すみません」

ス「ん？」

さ「ジムに挑戦したいんですが」

「希望者だね 名前は？」

さ「さいがです」

とさいが がジムを挑戦していたのでした

『次の町 フレイシティにつくあゆむ達

そこでのなみかの旅の決意が固まる

新キヤラも次々と登場！ 少しちひろについて解るかも？

次回「出てみよう！」お楽しみに！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0770z/>

ポケットモンスター マリン

2011年12月2日22時46分発行